

# 埋蔵文化財課年報 〈17〉

平成24年度

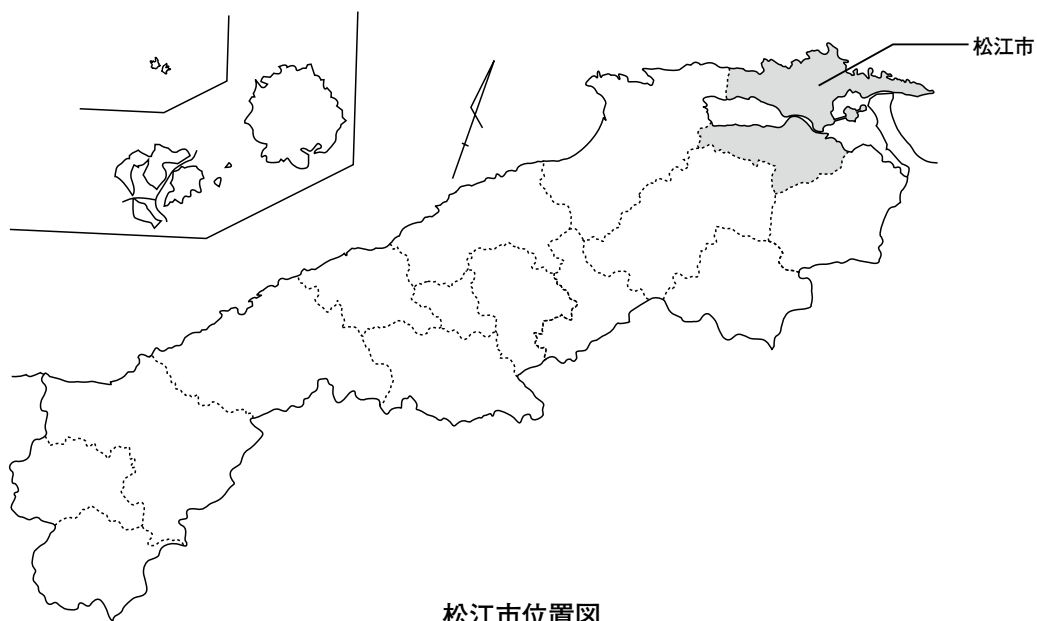


公益財団法人松江市スポーツ振興財団



# 目 次

第1章 公益財団法人松江市スポーツ振興財団の沿革と組織	1
第2章 平成24年度事業の概要	3
山代沖田遺跡	5
柳堀遺跡	6
松江城下町遺跡（母衣町127-2、128、198-1）	7
松江城下町遺跡（母衣町68）	9
松江城下町遺跡（殿町198-2外）（その2）	10
松江城下町遺跡（母衣町44外）	11
松江城下町遺跡（南田町130-6外）	12
松江城下町遺跡（南田町136-13外）	13
松江城下町遺跡（南田町137-13外・137-10外）	14
松江城下町遺跡（工事立会）	15
第3章 平成23年度以前の調査	16

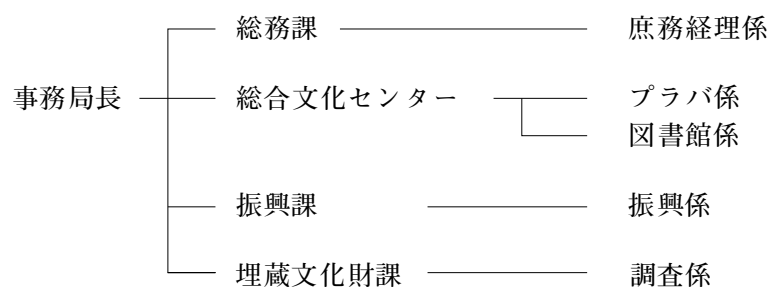


# 第1章 公益財団法人松江市スポーツ振興財団の沿革と組織

- ◇ 設 立 昭和51年（1976年）4月1日  
財団法人松江市教育文化振興事業団が設立される。
- ◇ 沿 革 平成25年（2013年）4月1日  
公益財団法人松江市スポーツ振興財団に移行。
- ◇ 所在地 松江市学園南1丁目21番1号
- ◇ 目 的 この法人は、教育・スポーツ・文化の振興に関する事業を行い、もって市政の発展と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。
- ◇ 事 業
  - (1) スポーツをとおして市民の健康な心とからだをつくり、生涯スポーツの普及・振興を目的とする事業。
  - (2) すぐれた芸術文化や文化情報に接する機会の提供と市民に新しい芸術文化の創造と活動の拠点とし、文化活動の普及に関する事業。
  - (3) 多様化する市民の学習ニーズや図書館サービスへの対応を図り、市民に親しまれる文化の広場としての役割を高めることで、読書普及活動の推進に関する事業。
  - (4) 埋蔵文化財の適切な保護及び活用のため、発掘調査・研究、出土品の収集・整理及び調査結果の情報提供を行う事業。
  - (5) 児童及び青少年の健全な育成を目的とする事業。
  - (6) 教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営に関する事業。
  - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業。

## ◇ 組 織 (平成25年4月1日現在)

評 議 員	7名
理 事 長	1名
副 理 事 長	2名
常 務 理 事	1名
理 事	3名
参 与	1名
監 事	2名



◇ 埋蔵文化財課

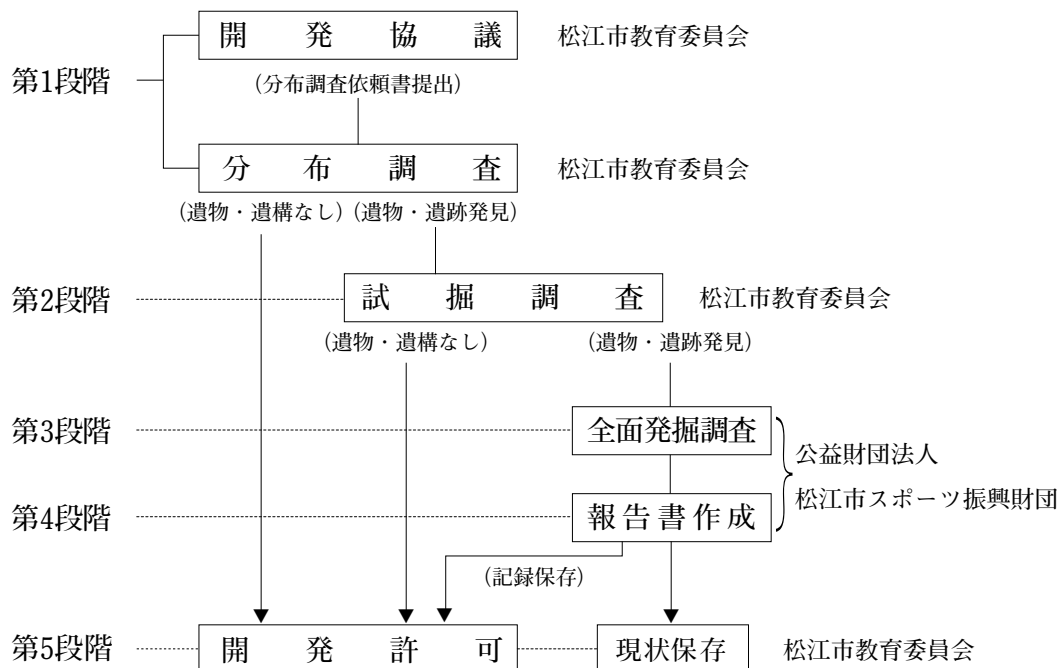
- 設 立 平成5年7月1日
- 所在地 〒690-0401 島根県松江市島根町加賀1263-1
- T E L 0852-85-9210
- F A X 0852-85-3611
- 業 務 1) 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。  
2) 埋蔵文化財課の庶務経理（予算及び決算を含む）に関すること。

◇ 平成24年度 職員体制（平成25年3月31日現在）

（財団法人松江市教育文化振興事業団）

理 事 長	松浦正敬
常 務 理 事	松浦克司
事 務 局 長	原 成美
埋蔵文化財課長	藤原 博
調 査 係 長	古藤博昭
専 門 企 画 員（事 務）	後藤哲男
主 任	江川幸子 落合昭久
嘱 託 職 員（調 査 員）	小山泰生 園山 薫 徳永桃代 秦 愛子 廣濱貴子 柚原恒平（～H24.7）
嘱 託 職 員（調 査 補 助 員）	宇津直樹 門脇祐介 北島和子 黒田裕司（H24.8～12） 清水初美 原 英誉 福光龍治 渡邊真二
嘱 託 職 員（事 務）	江角由巳

◇ 松江市埋蔵文化財業務フローチャート



## 第2章 平成24年度事業の概要

財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課では、平成24年度において7～8班体制をとり、遺跡の発掘調査と、工事立会調査、発掘調査報告書の作成を行った。事業の概要は以下のとおりである。

### 1. 発掘調査

茶臼山団地開発に伴う山代沖田遺跡発掘調査では、中世前半以降の大型の掘立柱建物跡が検出された。松江市宇竜谷土地区画整理事業に伴う柳堀遺跡発掘調査では、縄文時代から近世までの幅広い時期の遺物が検出された。松江赤十字病院別棟建設に伴う松江城下町遺跡（母衣町127-2、128、198-1）発掘調査では礎石建物跡、屋敷境の石垣、素掘りの大溝等が検出された。松江裁判所庁舎建設に伴う松江城下町遺跡（母衣町68）発掘調査は平成23年度からの継続事業として実施した。素掘り溝で分けられる4つの屋敷地が確認され、古絵図に合致する調査成果が得られた。

城山北公園線都市計画街路事業用地内で確認された松江城下町遺跡（殿町198-2外、母衣町44外、南田町130-6外、南田町136-13外、南田町137-13外）の5遺跡について調査を行った。松江城下町遺跡（殿町198-2外）は同遺跡の北側半分を平成23年度に調査を行っている。この時の調査で検出された木樋の南側の続きが検出された。合わせて、竹を使った竹樋も検出されている。松江城下町遺跡（母衣町44外）では、石積土坑や堀尾期の素掘りの大溝が検出された。松江城下町遺跡（南田町130-6外）では堀尾期、あるいは堀尾期から京極期の遺構面において掘立柱建物跡が検出された。古絵図での「空閑地」は人的に利用されていたことが分かった。松江城下町遺跡（南田町136-13外）は平成23年度からの継続事業であり、平成24年度は第5～第7遺構面の調査を行った。第5遺構面では畠跡、第6遺構面では掘立柱建物跡が検出された。堀尾期～京極期の古絵図の「空閑地」は畠地と想定できる成果を得た。松江城下町遺跡（南田町137-13外）では、堀尾期から京極期の土手が検出された。

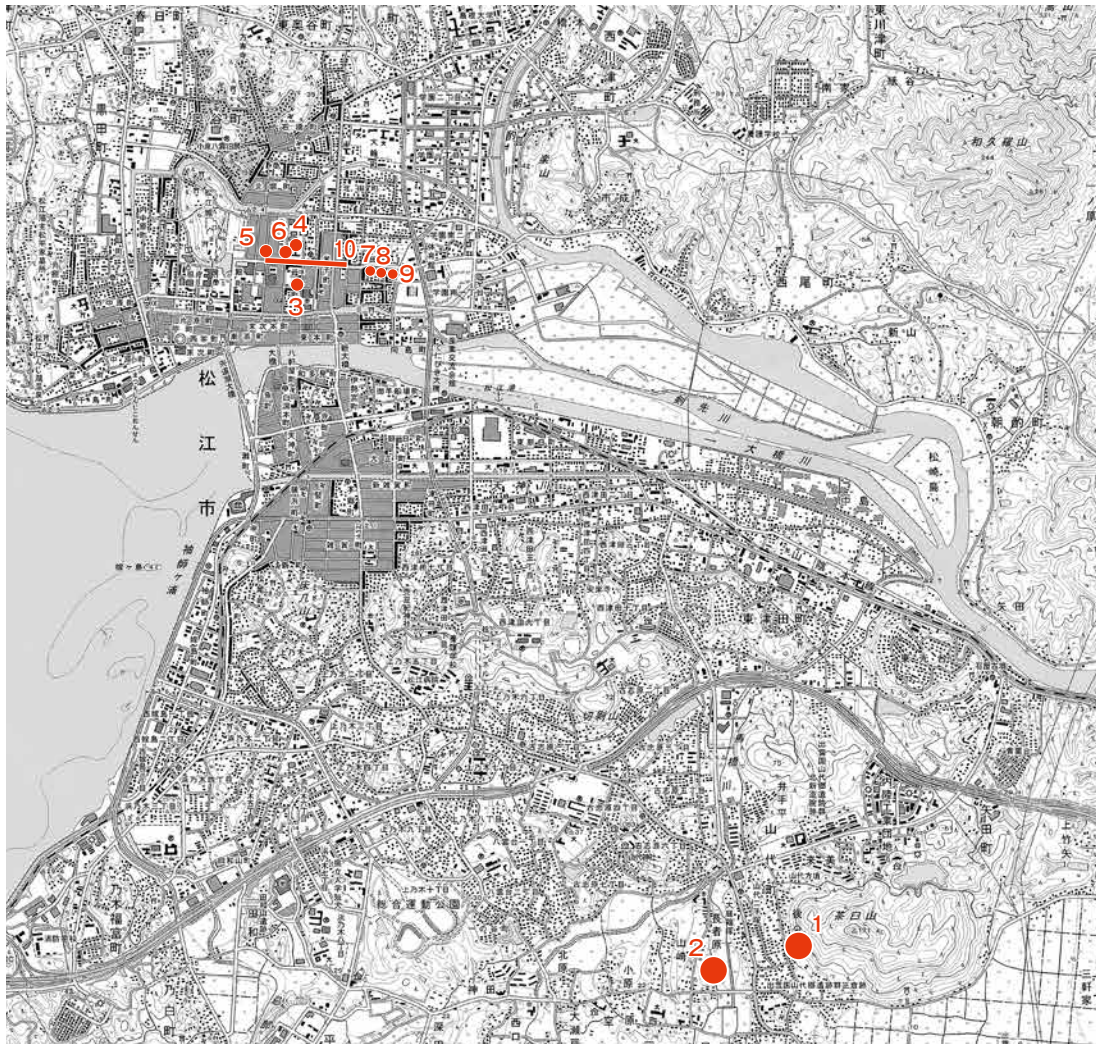
### 2. 工事立会調査

城山北公園線都市計画街路事業用地内で松江城下町遺跡が確認された箇所、全面調査が行えない場所については、工事立会調査を行った。

### 3. 報告書作成

城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査の成果の一部について報告書作成を行った。松江赤十字病院別棟建設に伴う松江城下町遺跡発掘調査の成果について報告書作成を行った。アルファステイツ母衣町Ⅱ（分譲マンション）建設に伴う松江城下町遺跡発掘調査成果について報告書作成を行った。茶臼山団地開発に伴う山代沖田遺跡発掘調査の成果について報告書作成を行った。松江裁判所庁舎建設に伴う松江城下町遺跡発掘調査の成果について、報告書作成作業を行った。史跡出雲国分寺跡発掘調査の報告書作成作業を行った。





1. 山代沖田遺跡
2. 柳堀遺跡
3. 松江城下町遺跡  
(母衣町127-2、128、198-1)
4. 松江城下町遺跡  
(母衣町68)
5. 松江城下町遺跡  
(殿町198-2外)
6. 松江城下町遺跡  
(母衣町44外)
7. 松江城下町遺跡  
(南田町130-6外)
8. 松江城下町遺跡  
(南田町136-13外)
9. 松江城下町遺跡  
(南田町137-13外、137-10外)
10. 松江城下町遺跡  
(工事立会調査)



平成24年度 調査地位置図



# やましろおきたいせき 山代沖田遺跡



調査地位置図

1. 所在地 松江市山代町363-1、364、364続-1、365、367-1
2. 調査面積 712.8㎡
3. 調査期間 平成24年4月6日～平成24年4月20日  
平成24年8月6日～平成24年9月14日
4. 調査原因 茶臼山団地開発
5. 遺跡の種別 集落跡
6. 遺跡の年代 古墳時代から近世
7. 調査の概要 本遺跡は、『出雲国風土記』に「神名樋野」と称されている茶臼山（標高171.5m）の南西麓の緩傾斜地に位置する。本遺跡周辺の南西側には出雲国山代郷正倉跡、南東側には山代郷南新造院跡など多くの遺跡が存在している。

調査の結果、掘立柱建物4棟、竪穴建物1棟、土坑、溝状遺構、多数の柱穴を検出した。掘立柱建物のうち注目されるのはSB01である。SB01は、桁行3間（8.4m）、梁間2間（4.7m）の建物で、主軸方向はN-14°-E、柱の直径1m前後、検出面からの深さは一番深いもので1.3m、柱間寸法2.8m、柱根径0.23～0.25mを測る。掘り方埋土から土師器、須恵器、中世須恵器、古代瓦が出土し、中世前半以降の建物である。また、その建物に隣接するように総柱建物（SB02）を検出し、SB01は主屋、SB02は付属建物であったと思われる、検出状況などから有力者の居館と考えられる。他の掘立柱建物も同時期と考えられ、また、多数の柱穴もあることから、中世前半以降において当地域に有力者が居館を構え、周辺に人々の住居が存在いたと推測される。

(廣濱貴子)



SB01、SB02完掘状況（西から）



やなぎ ぼり い せき  
柳 堀 遺 跡



調査地位位置図

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 所在地   | 松江市大庭町738-1, 738-2, 739-1   |
| 2. 調査面積  | 1,200㎡  |
| 3. 調査期間  | 平成24年11月5日～平成25年3月25日   |
| 4. 調査原因  | 土地区画整理事業  |
| 5. 遺跡の種類 | 散布地   |
| 6. 遺跡の年代 | 縄文時代～近世   |
| 7. 調査の概要 | 調査地は、松江市街地南東の大庭町長者原地区の水田休耕地に位置する。周辺には、東の丘陵上に国指定史跡の山代郷正倉跡、南の丘陵上に東淵寺古墳、また北へ400m |

のところには、国指定史跡の大庭鶏塚古墳が所在するなど著名遺跡の密集する地域である。

調査では、近世の溝、時期不明の柱穴・土坑・杭列や自然河道を検出した。このうち、近世の溝からは17～19世紀の陶磁器が多く出土し、江戸時代の比較的古い頃からこの地に人々が所在したことを確認することができた。また、自然河道からは、縄文時代晩期の鉢や弥生時代前期の壺、弥生時代中期の甕、古墳時代前期の壺・甕が出土し、周辺に当該期の遺構が存在する可能性を示す結果を得ることができた。その他、遺構面に堆積する土層からは、奈良時代～江戸時代までの多くの遺物が出土した。この土層中からは、古墳時代の須恵器の子持壺の子壺が出土しており、本遺跡の南の丘陵に存在する子持壺を供献土器とした東淵寺古墳との関連性が考えられる。

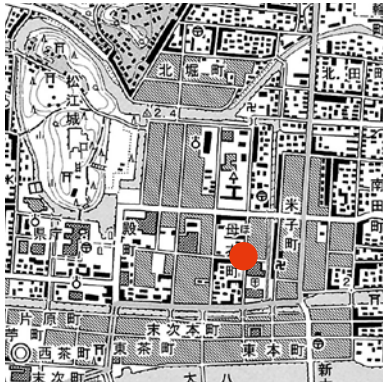
本遺跡では、人為的な遺構の検出は少ないものであったが、このように縄文～近世までの幅広い時代の遺物が検出できたことは、古代の大庭地域の歴史を語るうえで貴重なものとなりえよう。

(落合昭久)



調査区全景（北から）

まつ えじょうか まち い せき ほ ろ まち  
松江城下町遺跡 (母衣町127-2・128・198-1)



調査地位置図

1. 所在地 松江市母衣町127-2、128、198-1
2. 調査面積 A棟221㎡・B棟398㎡・保育棟207㎡
3. 調査期間 平成24年7月17日～10月11日
4. 調査原因 松江赤十字病院別棟建設工事
5. 遺跡の種別 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要 調査地は、松江城本丸の南東約650mに位置する。母衣町は江戸時代において城郭に伴う外堀の内側(内山下)にあり、城下町

構成上重要な地区とされており、江戸時代を通じて上・中級武家地となっていた区画である。

調査箇所は、松江赤十字病院別棟のA棟・B棟・保育棟の3地点が該当する。調査区の設定は建物予定地内のうち、地下の遺跡に影響が及ぶ部分(建物基礎杭部分・地下ピット部分・地中梁部分)であり、全面発掘は実施せず、3棟合計で51箇所の調査区を設定して調査をおこなった。

調査では大きく分けて2面の遺構面を確認し、第1面は18世紀前半～19世紀中頃(松平中期～幕末)、第2面は17世紀前半～中頃(堀尾期～松平前期)の時期にそれぞれ比定される。

主な遺構として、第1面では礎石建物跡・屋敷境石垣・廃棄土坑を検出し、第2面では掘立柱建物跡・素掘りの大溝を検出した。

調査成果から、A棟北側半分からB棟にかけては同一の屋敷地であることが明らかとなった。A棟調査区では屋敷境を境界として南北に隣接する2つの屋敷地(松平期絵図：高橋家500石・池田家120石)の縁辺部を調査し、B棟調査区では屋敷地(松平期絵図：高橋家500石)の北側縁辺



松平期の屋敷境石垣 (北東から)

部を調査したこととなった。屋敷の主体部はA棟とB棟の中間部分にあたるものと考えられるため、復元可能な建物跡は検出していないが、屋敷の縁辺部から廃棄土坑を数十基検出している。この状況から、屋敷の主体部ではない縁辺部は日常的なゴミ捨て場として利用していた空間であることが看取された。保育棟では屋敷地（松平期絵図：太田家300石）の表口付近を調査したこととなり、礎石建物跡の一部を検出している。

特筆すべき成果として、A棟調査区中央部で東西に延びる屋敷境石垣を検出したことにより、江戸時代後期の屋敷の特定が可能となったことが挙げられる。松平期絵図から、屋敷が南北に隣接する高橋家と池田家の屋敷境と判明しており、また、松平期の屋敷拝領者の変遷が書かれた武家屋敷明細帳とA棟発掘調査成果を整合すると、高橋家の屋敷地の規模（表口）が現地での測量成果とほぼ一致する結果となった。（下記の図参照）

高橋家の屋敷の向きは東向きで、表口は26間3尺5寸（51.78m）、南入は26間4尺5寸（52.08m）、後は26間6尺2寸（51.30m）、北入は26間5尺（52.22m）と記される。現地測量では、A棟調査区で検出した屋敷境石垣の高橋家側（北側石垣天端）を基点として、B棟調査区北側の石組水路までの直線距離の測量をおこなった結果、直線距離は51.20mを測り、史料に記載されている表口の規模（51.78m）とほぼ一致することとなった。これらの成果から、A棟調査区北半～B棟調査区は高橋家の屋敷地であることが判明した。

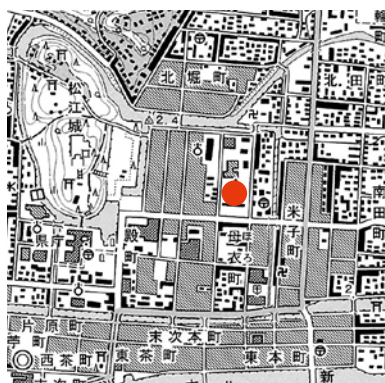
その他、当調査では掘立柱建物から礎石建物へと移り変わっていく建物の変遷の一端を示す遺構を検出している。また、素掘りの大溝の検出により、大手前線道路以外の地点でも屋敷割や区画整備のための大溝掘削を城下町造成初期段階におこなっていたという点は興味深い調査事例となった。（小山泰生）



武家屋敷明細帳に見る高橋九郎左衛門の屋敷地と屋敷の推定範囲（松平期後期）



まつ えじょうか まち い せき ほ ろ まち  
**松江城下町遺跡 (母衣町68)**



調査地位置図

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 所在地   | 松江市母衣町68番地   |
| 2. 調査面積  | 2,674㎡   |
| 3. 調査期間  | 平成24年4月2日～平成24年11月30日  |
| 4. 調査原因  | 広島高裁松江支部松江地家簡裁判所建設工事   |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡  |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代   |
| 7. 調査の概要 | 松江城下町遺跡(母衣町68)は松江城から東へ200mほどの場所に位置する江戸時代の城下町遺跡である。江戸時代には武家屋敷が立ち並んでいた場所であり、現存する |

古絵図から、堀尾期(1607～1633年)には長谷川氏(400石)、窪田氏(350石)、武俣氏(300石)、岩崎氏(200石)の屋敷地であったことが知られている。

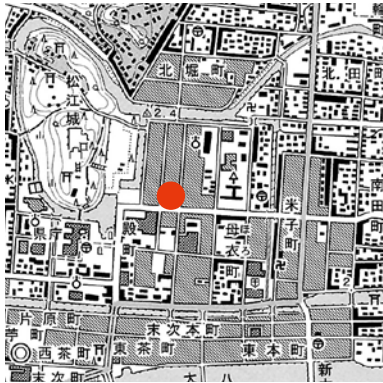
今年度の調査は昨年度に引き続き行われたものである。昨年度では第1～2遺構面の調査を行い、今年度は第3～6遺構面の調査を行った。各遺構面の年代観は、第3遺構面は江戸時代中期～幕末(松平期)、第4遺構面は江戸時代前半～中期(京極期の可能性を考えている)、第5遺構面は江戸時代初頭～前半(堀尾期)、第6遺構面は旧地表面～江戸時代初頭(城下町造成期)を示している。各遺構面を通して礎石建物跡、掘立柱建物跡、屋敷境溝などの遺構を多数検出しており、その中でも第5～6遺構面にかけては、大形の屋敷境溝(幅約8m、深さ2.3m)や残存状態の良好な礎石建物跡を検出した。第3遺構面からは「松平出羽守内 永田源五兵衛／拾貫目 荷物」と墨書のある荷札木簡が出土し、また、大量の肥前磁器・中国磁器が一括出土している。これらは、松江城下町を紐解く上で貴重な資料となり得たと言える。(秦 愛子)



完掘状況(南東から)



まつ えじょうか まち い せき とのまち  
松江城下町遺跡（殿町198-2外）（その2）



調査地位置図

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 所在地   | 松江市殿町198番2外                                   |
| 2. 調査面積  | 115㎡  |
| 3. 調査期間  | 平成24年11月19日～平成25年3月22日                        |
| 4. 調査原因  | 城山北公園線都市計画街路事業                                |
| 5. 遺跡の種類 | 城下町遺跡   |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代  |
| 7. 調査の概要 | 調査地は松江城から約200m東、東西に延びる城山北公園線（大手前線）沿いの北側に位置する。 |

本遺跡の位置を地図で見ると内山下にあたり、堀尾期には前田丹波（禄高3000石）、京極期には小姓衆組の赤林権左衛門（禄高：1200石）、松平期には家老として代々仕えた柳多四郎兵衛の名がみえる。

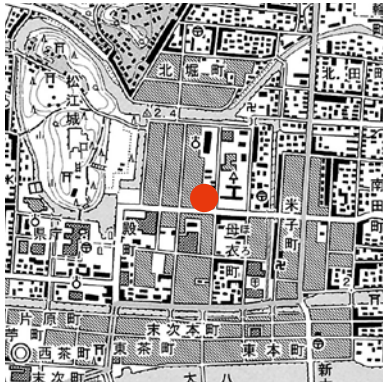
調査において5面の遺構面を検出した。その1調査区（北側・平成23年度調査済み）で検出した導水施設、木樋は本調査区側（南側）まで続き、南端は現状の道路まで続いていることが確認された。樋管と樋管の接続部は漏水防止のため粘土で覆われ、樋管の下には沈下防止と高さ調整の為にと思われる礫が置かれていた。出土遺物から18世紀後半から19世紀初め頃のものと思われる。木樋の東側から竹樋が検出された。竹樋は木樋や石列溝に壊され一部だけが残っているもので、補強のため紐で巻かれ、継手には漏水防止のため榎肌が詰められていた。出土遺物から18世紀代のものと思われる。他に門長屋の土台や竹小舞を使った土壁なども確認された。出土遺物は、木樋、竹樋以外に陶磁器、土師質土器が出土しているが数は少ない。

松江城下町遺跡発掘調査において、屋敷内における木樋や竹樋の導水施設の調査例は少なく、貴重な資料となったと思われる。（廣濱貴子）



木樋、竹樋完掘状況（北から）

まつ えじょうか まち い せき ほ ろ まち  
**松江城下町遺跡 (母衣町44外)**



調査地位置図

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 所在地   | 松江市母衣町44番地外   |
| 2. 調査面積  | 132㎡  |
| 3. 調査期間  | 平成24年5月14日～平成24年7月25日   |
| 4. 調査原因  | 城山北公園線都市計画街路事業  |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡   |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代  |
| 7. 調査の概要 | 調査地は松江城から東へ約400mに位置する。江戸時代の松江城下町絵図では内山下にあたり、堀尾期には役職、馬廻りの野村孫太郎（禄高：500石）、京極期には小姓衆 |

の赤林権左衛門（禄高：700石）、松平期（江戸時代後期）には中老から家老になった黒川又左衛門（禄高1000石）の屋敷地に比定される。

4面の遺構面調査を行い、第1面で塀、石積土坑、土坑を、第2面で植栽痕を、第3面で土坑（採土土坑）を、第4面で堀尾期最初期の素掘りの大溝を確認した。下図版は第1遺構面で検出した石積土坑である。北側の石積土坑1は円形をなすと考えられるが、石積土坑1や土坑に壊され、正確な形状は不明である。石積土坑2は大海崎石を使用した方形土坑である。これらの土坑からは陶磁器、漆椀、瓦が出土し、遺物の年代や検出状況から19世紀代の遺構と考えられ、土層断面から石積土坑1より石積土坑2が古いと推測された。

調査区内からは他にも多くの陶磁器、瓦、木製品、鉄製品などが出土している。特に第1遺構面で検出した廃棄土坑からは多くの生活雑器や鳥類をはじめとする動物遺存体が出土している。木製品のなかには墨書されたものがあり、「米屋裕三郎」、「神門郡稲岡村」などの文字がみられる。

本調査区では屋敷建物の跡は検出されなかったが、出土遺物から生活の一端を垣間見ることができたのは有意義であったと思われる。（廣濱貴子）



石積土坑1・2（南東から）



まつ えじょうか まち い せき みなみた まち  
**松江城下町遺跡 (南田町130-6外)**



調査地位置図

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 所在地   | 松江市南田町130-6外                              |
| 2. 調査面積  | 214.4㎡                                    |
| 3. 調査期間  | 西区：平成24年7月2日～8月31日<br>東区：平成25年2月13日～3月15日 |
| 4. 調査原因  | 城山北公園線都市計画街路事業                            |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡                                     |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代                                      |
| 7. 調査の概要 | 調査地は、南田町に残る鉤型路から東に約55m離れたところに位置する。        |

1745～1747年頃に描かれたとされる松平期（1638～1871年）の城下町絵図では、当時の松江藩家老「大橋茂右衛門」の家臣であった「永野市郎右衛門」の屋敷地にあたることが分かっている。（\*平成24年度概要報告書では、「大橋伊左衛門」屋敷地に比定していたが、平成25年度に当調査地の西側を調査したところ、「永野市郎右衛門」の屋敷地にあたることが判明した。）  
 堀尾期（1607～1633年）、京極期（1634～1637年）の城下町絵図では、人名の記載などはなく、「空閑地」となっている。

自然面も含めて4面の遺構面の調査を行った。松平期にあたる第1面は近代以降のかく乱のため、遺構の残存状況が悪く屋敷跡の検出ができなかったが、同じく松平期にあたる第2面では、掘立柱建物跡と畝の畝間溝を検出することができた。

堀尾期あるいは堀尾期から京極期にあたる第3面では、掘立柱建物跡を検出し、絵図では「空閑地」とされている場所が、実際には人的な利用がされていることが判明した。

自然面では、東西に延びる幅約8mと推定される溝が見つかった。この遺構について土壌分析を行ったところ、田などの耕作に利用された可能性はないとのことであった。（徳永桃代）



松平期の掘立柱建物跡と畝の畝間溝（西区）



堀尾期・京極期の掘立柱建物跡（東区）

まつ えじょうか まち い せき みなみた まち  
松江城下町遺跡 (南田町136-13外)



調査地位置図

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 所在地   | 松江市南田町136-13番地外  |
| 2. 調査面積  | 465㎡   |
| 3. 調査期間  | 平成24年4月2日～6月30日  |
| 4. 調査原因  | 城山北公園線都市計画街路事業   |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡  |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代   |
| 7. 調査の概要 | 調査地は、城山北公園線沿いの南側、市道南田町南北線と昭和橋間の東寄りに位置し、江戸時代の絵図で見ると松江城下町の |

ほぼ東端部分にあたる。調査では7面の遺構面を確認しており、前年度に第1面～4面までの調査を終了し、松平期（1638～1871年）の家老である大橋茂右衛門の与力屋敷が展開していた状況が明らかとなった。今年度は引き続き第5～7面までの調査を実施した。

主な遺構として、畠跡（第5面）・掘立建物跡・土坑群（第6面）・城下町造成以前の旧地表面（第7面）を検出した。第5面で検出した畠跡は、調査区のほぼ全域に広がっている状況で畝や畝間溝を良好な状態で検出することができ、畝の土壌分析結果からソバ・ソラマメ・ササゲ・ゴマなどを栽培していた環境であることが判明した。

畠跡の検出は、堀尾期・京極期絵図によると区画は示されているが屋敷の人名は記載されておらず、空閑地となっていた状況が看取される事実とも呼応している。調査所見から堀尾～京極期（1600年代初頭～1637年）の空閑地＝畠地と想定出来る重要な成果が得られた。（小山泰生）



堀尾～京極期の畠跡（南東から）



まつ えじょうか まち い せき みなみた まち  
松江城下町遺跡 (南田町137-13外・137-10外)



調査地位置図

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 所在地   | 松江市南田町137-13外・137-10外                                  |
| 2. 調査面積  | 137-13外：129㎡、137-10外：81㎡                               |
| 3. 調査期間  | 137-13外：H24年9月13日～10月26日<br>137-10外：H24年11月12日～12月11日  |
| 4. 調査原因  | 城山北公園線都市計画街路事業   |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡  |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代   |
| 7. 調査の概要 | 調査地は、松江城から約1km離れた松江城下町の東端に位置し、東側には江戸時代から存在する田町川が流れている。 |

1860～1861年頃に描かれたとされる松平期（1638～1871年）の城下町絵図に、調査地を照らし合わせると、当時の松江藩家老「大橋茂右衛門」の家臣であった「野中」氏の屋敷地にあたることが分かっている。また、堀尾期（1607～1633年）、京極期（1634～1637年）の城下町絵図では、人名の記載などはなく、「空閑地」にあたることが分かっている。

調査では、上層から第1面～第3面までの遺構面を検出し、第1面からは松平期にあたる掘立柱建物跡を、第2面・第3面では川に沿って造られた土手を検出した。この川土手は、堀尾期あるいは堀尾期から京極期に存在したものと考えられる。この川土手の下部構造の調査を行ったところ、シダ植物などを敷いて地盤補強と排水を目的とした敷葉工法が施されていることが判明した。また、第2面については、土層、標高などから松江城下町（136-13外）で検出した畠跡と同時期にあたるものと考えている。

(徳永桃代)



検出された川土手（南から）



川土手の敷葉の様子

まつ えじょうか まち い せき  
**松江城下町遺跡 (工事立会)**



調査地位置図

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 所在地   | 松江市殿町、母衣町、南田町   |
| 2. 調査面積  |   |
| 3. 調査期間  | 平成24年4月1日～平成25年3月31日  |
| 4. 調査原因  | 城山北公園線都市計画街路事業  |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡   |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代  |
| 7. 調査の概要 | 前年度に引き続き、道路整備に伴う電線共同溝などの工事に立ち会い、72箇所で行った。その成果として、2箇所で見つけられた。いずれも全容は検出されていないが、石組水路の下から屋敷側に向かっての落ち込みが検出されている。(MJR274、340) ※ |

も全容は検出されていないが、石組水路の下から屋敷側に向かっての落ち込みが検出されている。(MJR274、340) ※

石組水路は、現在も水路として機能しているものから、遺存状態の悪いものまであり13箇所で見つけられた。今年度は、母衣町の大手前線南側の2箇所 (MJR339、340) で断面調査を行い、その構造を探った。

米子川に架かる米子橋の架け替え工事では、橋の西側の橋台部が掘削された際に、調査区北側の標高0.4～0.6mで古石垣の栗石や、根石と思われる集石遺構が検出された。石垣は攪乱を受けているようで、石は整然と並んでいなかった。検出されたのは橋台部の北東角と考えられる。調査区南側では集石は無く、橋台部の南東角部と考えられる古石垣の根石の並びが検出された。南北で見つけられた石は大海崎石で、径が1mほどの大きな石も使われていた。(古藤博昭)

※「MJR…」は立会調査の地点番号



米子橋北西側 橋台北東角部の根石 (南東から)



米子橋南西側 橋台南東角部の根石 (西から)

### 第3章 平成23年度以前の調査

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H5	釜代1号古墳ほか	西浜佐陀町	粘土槨を伴う長大な割竹型木棺検出。水銀朱・鏡・玉類出土。	1994刊
H5	菅沢谷横穴群	乃白町	横穴墓12基を検出。	1994刊
H5	向遺跡	国屋町	奈良～平安期の集落跡検出。	1994刊
H5	論田4号墳	西津田町	(課設立以前の報告書作成) 古墳時代後期円墳と横穴墓群の調査成果。	1994刊
H5	柴尾遺跡	上東川津町	前期古墳と、縄文時代後期の黒曜石を中心とする石器生産遺跡を確認。	1994刊
H5	角森遺跡	八幡町	弥生後期～古墳時代にかけての遺物包含地。	1994刊
H5	敷居谷古墳群	東生馬町	5世紀の方墳を含む計3基の方墳を検出。後世の祭祀関連遺物が出土。	1994刊
H5	出雲国分寺跡	竹矢町	僧房の西方を調査。瓦溜り検出。	1995刊
H5	深田遺跡	大庭町	奈良～平安期の道路状遺構と円形土坑列を検出。	
H5	岩汐峠遺跡ほか	大井町	礫石経塚を検出。	1999刊
H5	出雲国府跡	大草町	直接国府に関連する遺構は検出されなかった。	
H5	勝負谷遺跡	大庭町	さいの神と積石塚、古代と考えられる道路状遺構を検出。	1999刊
H5	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は検出されなかった。	1999刊
H6	柴尾遺跡ほか	上東川津町	縄文時代の石器生産遺跡と前期古墳を調査。	1995刊
H6	敷居谷古墳群	東生馬町	後期初頭の方墳。主体部から太刀等が出土。	1995刊
H6	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は発見されなかった。	1999刊
H6	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期から後期初頭の掘立柱建物群検出。	1999刊
H6	舟津横穴群	薦津町	横穴墓2穴と近世貯蔵穴3穴を検出。	1995刊
H6	筆ノ尾横穴群	東長江町	横穴墓5基を検出。	1995刊
H6	寺の前遺跡	山代町	自然流路から古代瓦、陶製鴟尾等が出土。	1995刊
H6	黒田畦遺跡	大庭町	奈良時代の土坑内から墨書土器・製塩土器・律令様式の土器が出土。	1995刊
H6	二名留遺跡	乃木福富町	古墳時代と近世の遺物包含地。	1995刊
H6	向山1号墳	大庭町	トレンチ調査で未盗掘の石棺式石室発見。	1996刊
H7	向山古墳群	大庭町	32×20m以上の方墳。羨道から前庭にかけて馬具、玉等が出土。	1998刊
H7	遅倉横穴群	朝酌町	横穴墓5基を検出。	1999刊
H7	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物数片が出土。遺構は検出されなかった。	1999刊
H7	宮尾古墳群ほか	西川津・上東川津町	石器のほか、室町後期～安土桃山時代の五輪塔2基が出土。	1996刊
H7	袋尻遺跡群	乃白(現平成)町	堅穴住居跡7棟、土壇5基、後期古墳2基、近世墓2基等を検出。	1998刊
H7	四王寺跡	山代町	調査範囲が狭く、四王寺との関連性を判断するには至らなかった。	1996刊
H7	大久保遺跡	乃白町	焼土壇、ピットを検出。	1996刊
H7	川原後谷横穴群	川原町	横穴墓の墓道のみ調査。	1996刊
H7	寺山小田遺跡	矢田町	古墳時代中～後期の集落跡検出。2棟の建物内から玉類出土。	1996刊
H8	小無田Ⅱ遺跡	山代町	山代郷南新造院の瓦を焼いた8世紀代の瓦窯跡3基を検出。	1997刊
H8	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期の集落跡を検出。	1999刊
H8	柴Ⅲ遺跡	西川津町	弥生終末期の玉造工房跡含む堅穴式住居跡3棟等を検出。	1997刊
H8	袋尻遺跡群	平成町	古墳6基、堅穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、土壇3基、横穴墓3穴を検出。	1998刊
H8	松江北東部遺跡	上本庄町	堅穴住居跡と掘立柱建物跡を検出。子持勾玉が出土。	1999刊
H9	大佐遺跡群	西持田町	古墳時代初頭の墳丘墓と、戦国時代の真山城塞群の一部を検出。	1999刊
H9	米坂古墳群	西尾町	古墳時代中期～後期の方墳7基と埋葬施設8基を検出。	1999刊
H9	柴尾遺跡	西尾町	遺構、遺物は検出されなかった。	1999刊

H 9	松江北東部遺跡	上本庄町	中世の堀立柱建物跡2棟、井戸状遺構1基を検出。有舌尖頭器出土。	1999刊
H 9	田和山遺跡群	乃白町	弥生時代前期～中期の3重の環壕を検出。銅剣形石剣などが出土。	2005刊
H10	夫手遺跡	手角町	約6000年前の漆液容器、木製の櫛が出土。	2000刊
H11	久米遺跡群	比津町	古墳時代後期～奈良時代の竪穴住居跡1棟、堀立柱建物跡11棟を検出。	2000刊
H11	門田遺跡	乃木福富町	弥生時代中期の自然流路、溝、土壇、ピット、杭列などを検出。	2000刊
H11	大坪遺跡	山代町・大草町	「恐々謹解・・・」と記された木簡が出土。	2001刊
H10～H11	田和山遺跡群	乃白町	三重の環壕検出。濠の外側で竪穴住居跡、堀立柱建物跡を多数検出。	2005刊
H12	北小原古墳群	西浜佐陀町	石棺2基検出(内1基は現状保存)。小型仿製鏡が出土した。	2000刊
H12	田中谷遺跡Ⅲ区	法吉町	掘立柱建物跡と自然河道を検出。	2001刊
H12	雲垣遺跡	乃白町	弥生時代中期を中心とした遺物包含地。	2001刊
H12	大坪遺跡	山代町・大草町	自然流路に挟まれた微高地の存在を確認。木製品出土。	2002刊
H12	法吉遺跡	法吉町	自然流路からドングリ集積遺構を検出。縄文土器の細片や黒曜石が出土。	2002刊
H12	舎人遺跡	国屋町・黒田町	城跡に結びつく遺構は確認されなかった。近世以降の遺物が出土。	2002刊
H13	奥山古墳群	上乃木町	古墳時代中期頃の古墳6基を調査。鉄剣や鉄鏃等が出土。	2002刊
H13	大坪遺跡	山代町・大草町	自然河道を検出。古墳中期～後期の土器と木製品が出土。	2002刊
H13	荒隈城跡(小十郎地区)	国屋町	近世以降の古墳群を検出。幕末～近世の土器出土。	2002刊
H13	法吉遺跡	法吉町	土壇や杭列を検出。弥生～10世紀代の土器、木製品が出土。	2002刊
H13	山津窯跡	大井町	土坑、溝、旧河道などを検出。古墳～奈良時代の遺物出土。	2006刊
H13	田和山遺跡	乃白町	建物跡、土壇、小石棺、自然流水路などを検出。	2005刊
H14	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生中期～奈良時代の竪穴住居跡や墓壇、水溜遺構等を検出。	2004刊
H14	犬丸遺跡	上大野町	溝2条・土坑3基を検出。	年報Ⅶ
H14	渋ヶ谷遺跡(播松地区)	上乃木町	道路状遺構や溝状遺構、上幅6～7mの断面V字～逆台形の大溝を検出。	2005刊
H14	田和山遺跡群	乃白町	掘立柱建物、小石棺を検出。	2005刊
H14	法吉遺跡	法吉町	湿地層から、弥生～10世紀の土器片と木製品が出土。	2004刊
H14	山津遺跡	大井町	6世紀後半と8世紀前半の須恵器窯跡等を検出。鴟尾・陶棺が出土。	2006刊
H14	薦沢砦跡	法吉町	城郭遺構は検出されなかった。	2005刊
H15	菅田横穴墓群	菅田町	横穴墓22穴を検出。	2005刊
H15	渋ヶ谷遺跡(播松地区)	大庭町	道路状遺構や溝状遺構、大溝を検出。	2006刊
H15	山津窯跡	大井町	窯壁と7世紀中～後半の須恵器が出土。	2006刊
H15	井廻古墳	上大野町	石棺の一部が残存。	年報Ⅷ
H15	宮ノ前遺跡	持田町	竪穴住居跡2棟等を検出。弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土。	年報Ⅷ
H15	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生時代の加工段と古墳1基を検出した。主体部から鏡等が出土した。	2004刊
H15	荒隈城跡(小十郎地区)	国屋町	大規模な土木工事による山城遺構を検出。	年報Ⅶ
H16	渋ヶ谷遺跡	大庭町	古墳時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡を検出。焼失住居も確認。	2006刊
H16	渋ヶ谷1号窯	大庭町	6世紀初頭の須恵器窯を検出。	2006刊
H16	措松遺跡	大庭町	古代道路遺構と考えられる遺構を検出。	2006刊
H16	山津遺跡	大井町	7世紀代の須恵器と窯壁の塊が出土。	2006刊
H16	久傳遺跡	比津町	古代時代を中心とする掘立柱建物跡を7棟検出。	2006刊
H16	向山西遺跡	古志原	丘陵頂部付近から弥生後期初頭の竪穴住居跡2棟を検出。	2006刊
H17	鶴灘山遺跡他	鹿島町名分	弥生後期初頭の玉作工房跡を検出。	2007刊
H17	二反田遺跡	春日町	弥生時代の竪穴住居跡3棟、中近世の大型土坑を検出。	2006刊
H17	勝負奥遺跡	乃白町	弥生後期中葉の竪穴住居跡を検出。	2006刊



H17	矢の原Ⅱ遺跡	上乃木町	道路状遺構を2条検出。	年報X
H17	山津遺跡G区	大井町	7世紀末頃を主とする須恵器片と5体の土馬が出土。	年報X
H17	松江城下町遺跡	母衣町	松江裁判所跡で、城下町形成時の造成土を確認。	年報X
H18	西川津遺跡C区	西川津町	大量の縄文土器・弥生土器・土師器・石器が出土。	2011刊
H18	古屋敷Ⅱ遺跡	西川津町	10～11世紀前後を主とする土師器・須恵器と若干のピットを検出。	2011刊
H18	大勝間山城跡	鹿島町名分	中世の山城跡。弥生中・後期の住居跡と運河佐陀川の揚土置場を検出。	2009刊
H18	鵜灘山遺跡他	鹿島町名分	H17年に調査が許可されなかった大勝間山城の一隅を調査。	2007刊
H18	団原Ⅱ遺跡	大庭町	近世～現代の畑や坑を確認。	
H18	松江城下町遺跡	殿町287	家老屋敷跡の調査で、4つの遺構面を検出。	2011刊
H18	松江城下町遺跡	南田町77-1外	素掘りの大溝やウラジロ敷詰層を検出。	2012刊
H18	松江城下町遺跡	南田町52-32外	ウラジロ(シダ)を敷いた跡を検出。	2012刊
H18	松江城下町遺跡	南田町52-1外	〃	2012刊
H18	松江城下町遺跡	母衣町193-2外	石組水路を検出。	2014予
H18	松江城下町遺跡	殿町344外	柱穴列、石組、石列や竹組を伴う遺構を検出。	2013刊
H18	松江城下町遺跡	殿町345-1外	石垣と石列を検出。	2013刊
H18	田原谷遺跡	春日町	古墳時代の土壌墓の他、中・近世の建物跡を検出した。	
H18	岩汐窯跡	大井町	須恵器窯跡1基を確認した。	2009刊
H18	石の堂・新宮遺跡	岡本町	両遺跡とも土師器等の遺物を含む自然流路を検出した。	2009刊
H19	松江城下町遺跡	殿町287、279	家老屋敷跡の調査。南北に別々の屋敷跡が存在した。	2011刊
H19	松江城下町遺跡	母衣町68	武家屋敷跡の調査。	2012刊
H19	松江城下町遺跡	米子町49-3	武家屋敷跡の調査で、4つの遺構面を確認。	2014予
H19	松江城下町遺跡	米子町40-4	町屋と思われるところを調査。礎石を確認し、大量の陶磁器類等が出土。	2014予
H19	松江城下町遺跡	南田町	武家屋敷跡の調査。江戸時代初期の造成工事に伴うウラジロや杭を検出。	2012刊
H19	佐太前遺跡	鹿島町佐太宮内	弥生時代前期の大溝と中世の大型建物を検出。	2010刊
H19	田中谷Ⅱ遺跡	西法吉町	加工段やピットを検出。9世紀代の須恵器類が出土。	2008刊
H19	小原遺跡	八雲町東岩坂	中世の墓塚と思われる土坑を検出し、竜泉系の青磁や渡来銭が出土。	2008刊
H19	千酌条里制遺跡・中殿遺跡	美保関町千酌	条里関連の暗渠を検出。中殿遺跡から弥生後期～古墳中期の遺物が出土。	2010刊
H19	春日山古墳群・寺ノ脇遺跡	手角町町並	古墳前期～中期の古墳群。寺ノ脇遺跡は縄文時代～近世の遺物が出土。	2009刊
H19	砂口遺跡	大庭町	古墳中期の住居跡と推定される遺構を検出。弥生中期の遺物も数点出土。	
H19	大坪遺跡	大草町・山代町	弥生時代の住居跡を検出。	2008刊
H19	能登堀遺跡	穴道町穴道	古墳後期の溝状遺構を検出。中国磁器や石製硯が出土。	2009刊
H19	大勝間山城跡	鹿島町名分	弥生中・後期の住居跡、山城の曲輪、近世運河の造作遺構を検出。	2009刊
H19	西屋敷遺跡	大庭町	地山を覆う層から少量の須恵器が出土。	
H19	清水遺跡	鹿島町佐太宮内	中世の土地造成、18世紀代の掘立柱建物を検出。	
H19	石台Ⅱ遺跡	東津田	流水の堆積土層を確認。中世の土師質土器や弥生前期の遺物が出土。	2009刊
H19	乃木西廻遺跡	上乃木町	中世の祭祀遺構を検出。土坑から中国製褐四耳壺が出土した。	年報XI
H20	松江城下町遺跡	米子町47	武家屋敷の調査。ゴミ穴を検出した。	2014予
H20	松江城下町遺跡	南田町52-7	武家屋敷の調査。ウラジロを検出した。	2012刊
H20	松江城下町遺跡	母衣町40外	武家屋敷の調査。3つの遺構面から土坑や水路、建物礎石などを検出。	2013刊
H20	松江城下町遺跡	母衣町68	H19からの継続調査。石組遺構や井戸、土坑などを検出。	2012刊
H20	松江城下町遺跡	殿町287、279	H19からの継続調査。江戸初期の建物礎石などを検出。	2011刊
H20	石台Ⅱ遺跡	東津田	H19からの継続調査。縄文土器や弥生土器などが出土。	2009刊

H20	番袋跡・中殿跡・修理田跡	美保関町千酌	H19からの継続調査。修理田遺跡から掘立柱建物跡を検出。	2010刊
H20	寺ノ脇遺跡	手角町町並	H19からの継続調査。古墳後期の遺構面を検出。縄文～古墳の土器が出土。	2009刊
H20	松江城下町遺跡	母衣町・米子町・南田町	工事立会調査。29ヶ所で実施し、主にゴミ穴を検出。	
H20~H21	佐太前遺跡	鹿島町名分	H19からの継続調査。中近世の遺構面から大型掘立柱建物跡を検出。	2010刊
H20	戸崎遺跡	上佐陀町	弥生中期末～後期初頭の竪穴住居跡を検出。	2008刊
H20	能登堀遺跡	六道町六道	H19からの継続調査。遺構は検出されず、遺物包含層を確認。	2009刊
H21	出雲国分寺跡	竹矢町	伽藍城区画溝、瓦敷遺構2基、粘土採堀坑8基等を検出。	2010刊
H21	石流遺跡	法吉町	7世紀初頭の加工段、掘立柱建物跡等を検出。	2010刊
H21	来美南遺跡	山代町	遺構は検出されなかった。古代瓦が多数出土。	2009刊
H21	史跡出雲玉作跡宮ノ上地区	玉湯町	江戸時代の御茶屋建物に付随する庭園の調査。苑池に水を引く導水路を検出。	2010刊
H21	池平山城跡	鹿島町	中世山城の調査で、郭、道路状遺構等を確認。	2009刊
H21	上講武清水遺跡	鹿島町	8世紀前後の掘立柱建物跡1棟や土坑、溝状遺構、ピット群を検出。	2011刊
H21	佐太前遺跡	鹿島町	工事立会。古代末～中世の遺構面と弥生時代後期～古墳時代初の遺構面を検出。	2010刊
H21	松江城下町遺跡	母衣町40外	遺構面を3面検出した。江戸時代初頭面で土坑、壁、溝状遺構を確認。	2013刊
H21	松江城下町遺跡	殿町344外	遺構面を4面検出。17世紀初頭の遺構面では土留工事跡を検出。	2013刊
H21	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を56ヶ所で実施。江戸時代の石組水路、ゴミ穴等を検出。	
H21	松江城下町遺跡	米子町55-5	町屋の調査。礎石や石積遺構を検出。獣骨が入った桶が出土。	2014予
H21	松江城下町遺跡	殿町191-13外	武家地屋敷の調査で、柱穴、ゴミ穴を検出。	2013刊
H22	西後遺跡	西谷町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2012刊
H22	米塚遺跡	西谷町	礫石経塚を検出。	2012刊
H22	上講武大石遺跡	鹿島町上講武	8世紀中頃～9世紀前半の集落跡を検出。	2012刊
H22	キコロジ遺跡	朝酌町	6世紀後半～9世紀の遺物が大量に出土。	2011刊
H22	石屋遺跡	東津田町	どんぐりの貯蔵穴1基を検出。	2011刊
H22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門から中門の参道脇を調査。独立ピット（旗立痕か）1基を検出。	
H22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門前を調査。造成土を検出。	2012刊
H22	野塚遺跡	八束町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2011刊
H22	松江城下町遺跡	殿町344外	武家屋敷の調査で、7つの遺構面を検出。	2013刊
H22	松江城下町遺跡	母衣町180-28・29	外掘石垣と、それに繋がる基壇状石垣を検出。	2014予
H22	松江城下町遺跡	南田町80-11	武家屋敷の調査で、ゴミ穴等のほか、江戸時代初期の溝を検出。	2014予
H22	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・南田町	工事立会調査を22ヶ所で実施。素掘りの大溝を各所で検出。	
H22	松江城下町遺跡	南田町134-11外	堀尾期～京極期の畠跡を検出。松平期の掘立柱建物跡、礎石建物跡を検出。	2014予
H23	後廻遺跡	上乃木	弥生後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡、布堀り掘立柱建物跡を検出。	2011刊
H23	王子坂遺跡	上乃木	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。縄文時代晩期から近代に至る遺物が出土。	2012刊
H23	スモト遺跡	古曾志町	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。弥生中期後半から中近世の遺物が出土。	2011刊
H23	江分遺跡	竹矢町	弥生中期から後期末の遺構や古墳時代後期を中心とする粘土採取坑を検出。	2012刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町68	幕末から明治時代頃の礎石建物跡を検出。	
H23	松江城下町遺跡	南田町136-13外	7面の内、1～4面の調査を実施。礎石建物跡、掘立柱建物跡、屋敷境を検出。	2014予
H23	松江城下町遺跡	殿町198-2外	江戸時代後期以降の木樋を検出。素掘りの大溝（南北溝）を検出。	2014予
H23	松江城下町遺跡	母衣町45外	6面の遺構面を検出。植栽痕、礎石、ピット、大形の土坑、素掘りの大溝を検出。	2013刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町180-28・29	前年度の西側（2区）を調査。礎石建物、掘立柱建物、素掘りの大溝、水田跡を検出。	2014予
H23	松江城下町遺跡	母衣町100外	北、東で屋敷境と思われる素掘りの溝を検出。東側の溝は幅20mを測る。	2012刊
H23	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を36ヶ所で実施。石組水路、素掘りの大溝を検出。	

平成24年度

埋蔵文化財課年報 〈17〉

2014年3月

発行 公益財団法人松江市スポーツ振興財団

印刷 有限会社黒潮社



